

離島体験交流事業5年目スタート



発行者
NPO 法人いけま福
祉支援センター
電話：75-2870



今月3日から5日、沖縄県与那原町より、与那原東小学校5年生児童77名が池間島に来島し、島の暮らしを体験する「離島体験交流事業」が開催されました。池間島では、2011年から民泊の受け入れを開始しており、今年で5年目となります。離島体験初日は、島内を体験しながら

2日目は、民家のみなさんと一緒に潮が引いたイラビシへ降りて、シャコガイやサザエを探したり、海の生きものの観察をしたりして楽しみました。夕方には、離島振興総合センターにて交流会が開催され、イラビシで獲った海の恵みを入れたシーフードカレーが振る舞われました。今年度の離島体験事業はあと2校、7月と10月に予定されています。



シマ学校「野のいちそう」

先月30日、第13回目のシマ学校が開講しました。今回のテーマは、「野のごちそう」。昨年実施して好評だったことから、今年も集落内に生える野の草を摘んで、おいしくいただく方法を学びました。さらに、今回は薬草として、ヨモギ（ヤチユウサ）、ホウセンカ（ティンダク）、シマニシキソウ（ティンカイアパナツフサ）、キケマン（ヌーマヌスバイ）などの効用と使い方も学びました。



セブンイレブンを助成

池間自治会へ



このたび、セブンイレブンを記念財団より、池間自治会へ398,106円の助成が決定しました。この助成を受けて、池間自治会では、島内の緑化活動(在来樹種の苗木づくり・植樹)、および草刈・清掃活動に必要な備品や消耗品を購入しました。漁港周辺や、一週道路沿い、海岸線沿いなどに、ヤラウギー(テリハボク)やアラツジユキ(モンパノキ)等の在来樹種の苗木を育てて植え付けし、手入れを続けていくことにより、かりとした防風防潮林をつくり、同時に乱開発からも島を守るための取り組みです。

島の最大の資源である、自然や景観、文化を次世代に継承し、災害時のリスクや農作物被害の低減、在来樹種の保全等を目指す取り組みで、全国からも注目されています。



福島県からの「保養」受け入れ

福島県の小さな子どもたちとその家族を宮古島に招待し、島で1週間ほど「保養」をしてもらおうという取り組みが、2年前より「うむい宮古島」というプロジェクトとして行われています。「保養」とは、放射能汚染の高い地域に住んでいる子どもたちを、一定期間汚染のない地域で、安全な食べ物を食べ、のびのびと遊ばせることで体内の放射線物質を排出し、病気になるリスクを減らす取り組みのことです。

今年の夏は、池間島にて30名ほどの親子を受け入れ、池間の海で遊び、島の空気を吸って島のものを食べて保養してもらうことになりました。7月28日～8月1日までの5日間、民泊受け入れをしている有志のみなさんの民家に滞在する予定です。滞在中に交流会なども開催されますので、池間島のみなさんであたたかく迎えましょう。



写真は宮古新報より、2014年の保養受け入れの様子

小さき声のカノン」上映中

鎌仲ひとみ監督による、「小さき声のカノン」は、福島で現在でも放射能汚染の不安をかかえながら子どもたちを育てる母親たちの姿、チエルノブイリ原発事故を経験したベラルーシで、子供たちを守るために取り組まれている活動について、ていねいに取材されたドキュメンタリー映画です。「保養」によって子どもたちを被ばくから守ることができると伝えていたい、という監督の思いが伝わってくる内容です。7月に池間島に来島するご家族も映画に登場しますので、関心をお持ちの方はぜひご覧ください。



内容です。7月に池間島に来島するご家族も映画に登場しますので、関心をお持ちの方はぜひご覧ください。

今月の予定

- 6月14日(日) 池間自治会総会
- 6月16日～18日 豊島学院高校民泊
- 6月18日(木) ヒヤリックズ前夜祭
- 6月19日(金) 第120回ヒヤリックズ
- 6月25日～27日 川崎医科大付属高校民泊
- 6月29日(月) 池間漁協総会